

2023.4.18

EuroLuce 2023 特別展示

Fiat Bulb. The Edison Syndrome (エジソン症候群)

展示デザイン・キュレーション: Martina Sanzarello(マルティーナ・サンツアレッコ)

4月18日~23日、ホール15

白熱電球は、一見シンプルでありながら、その形状に内在する強度を持ち、それゆえに象徴的で認識しやすい物体であることに敬意を表した展覧会です。アートとデザインを通して、現代の電球の歴史が語られます。この電球は、本来の実用的な用途から、不穏なオブジェや小さな実験的なインスタレーションへと変化し、驚きと逆説に満ちた作品として構成されています。最小限の連続的な変化を通して、連続的な変化、衰退、意味の逆転などを引き起こし、完全に消滅するまで続く、押し寄せるリズムに従って並べられた作品の数々です。「親密さと大衆性、ユニークさと連続性、壊れやすさと眩しさ。電球というオブジェに刻まれた光の魔法は、呪物、アイコン、偶像となった」とマルティーナ・サンツアレッコは語ります。

展示スタンド

このインスタレーションは、循環する形で考案され、一般家庭の機能とはかけ離れたクールで工業的な素材から作られ、その主題の「連続性」、作品としての独自性と結びついた形としての明らかな反復のアイデアを軸に展開されます。変形、精巧化、操作の技術的な空間であり、その外観は極めて機械的ですが、その内容は信じられないほど魔術的です。円形のベルトコンベアは、空間全体の展開において、箱やパッケージの中に置かれた作品のディスプレイとして機能し、来場者の注意を引きつけ、それぞれの容器の中を注意深く、好奇心を持って見るようにしています。「電球の寿命のように、点灯から消灯まで、あらゆる瞬間に観客を魅了する技術的なセットアップと循環的なパス。連続した外皮を乗り越え、ユニークで特別な内部を発見するために目を引きつけるディスプレイです」とデザイナーは語っています。

マルティーナ・サンツアレッコ

ミラノ工科大学でインテリアデザインを学び、現在、ミラノ在住し教鞭を執る。企業や通信社とのコラボレーションで、デザインからファッション、小売からエディトリアルまで、幅広い仕事を手がけている。特別なもの、自然なものの収集家であり、特に各物品が与える感情を研究、静物画を構成し、最も斬新な現代のトレンドに合わせた写真の解釈を編成している。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it